

主な活動の紹介

○ことぶき会（老人クラブ）の協力による米づくり（福賀小学校）

小学校では、総合学習の時間で、米づくり（餅米）の学習に取り組んでいます。5月には田植え、10月には稲刈りをそれぞれことぶき会の方の指導で行っています。田植えでは苗の持ち方や植え方、稲刈りでは、のこ鎌の使い方や稲の束ね方を教えてもらい作業に取り組みました。そして12月には収穫した餅米を使って餅をつく収穫祭を行いました。田は農事組合法人「福の里」から借り受け、水の調節や草取り等、日々の管理にも協力いただいています。田植えから稲刈り、餅つきまで全校児童が地域の方々にお世話になる大きな取組です。

○地域の中で地域の方々とふれ合う職場体験学習（福賀中学校）

職場体験学習については、JAすいか部会・福賀商工会のご厚意により地元のすいか農園で職場体験を行うことができました。地域での職場体験を設定することにより、従来の生徒の希望による個別体験だけでなく、同じ事業所で全員が行う共通体験を設定することができました。福賀すいかは地域特産の農作物であり、毎年保育園と小・中学校の子どもたちはすいかの出荷式に招かれています。職場体験を終えた生徒たちは味のよい福賀すいかが、農家の方々の様々な工夫と苦勞によって作られていることが理解できました。

○地域の各種団体の協力のもと取り組むしめ縄づくり（福賀小・中学校）

正月を間近に控えた12月下旬、毎年子ども会主催のしめ縄づくりが行われます。材料を前もって地域の方々が取りに出かけ、当日はことぶき会（老人クラブ）の方々に作り方を習います。中学生は慣れているせいか、次々と立派なしめ縄を作りあげますが、小学生はなかなか形にならず、地域の方に援助していただいています。昼食にヘルスメイト（婦人会）手作りの豚汁とおむすびをいただき、冷えた体が温まります。昔ながらの伝統行事を後世に伝えていくことの大切さを感じる行事です。



職場体験学習
（スイカの収穫） 中学生



稲刈り 小学生



しめ縄づくり 小・中学生

成果と課題

少子高齢化の進む過疎地ですが、「地域の子どもは地域で育てる」という意識が高く、おかげで学校は様々な教育活動を展開し、学校教育を活性化することができました。また、学校祭などの公開行事を通して、学校教育活動の理解とともに教員と住民との距離も縮まり、地域との信頼関係をより一層深めることができました。今後、地域協育ネットを継続していくためにも、学校は可能な限り地域の行事に参加し、それぞれの活動を支えていく必要性を感じています。

今後の取組

- ・放課後子ども教室に地域人材の情報網を活用して、新たな活動メニューを拡大していきます。
- ・「子どもは通学していないが、子どものために何かしたい」という育友会OBの方に参加を促進していきます。
- ・地域での取組が年中行事化しており、活動が固定化しつつある中、今後は教員の企画力を高め、その企画と地域協育ネットをつなげ、発展させていきます。